

2021 年度事業報告書

2022 年 6 月

一般社団法人日本分析機器工業会

2021 年度 事業報告書

(2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日まで)

2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日までの期間において、一般社団法人日本分析機器工業会が実施した事業について、次のとおり報告致します。

I. 会員の異動

2021 年度における入会は正会員 2 社および賛助会員 2 社、退会は正会員 1 社および賛助会員 1 社で、会員総数は 2021 年度末現在 164 社となった。(会員の異動については別紙 1 参照)

2021 年度末現在 会員数 164 社 (正会員 98 社、賛助会員 66 社)

II. 総会、理事会等

1. 総会

一般社団法人日本分析機器工業会 2021 年度定時総会を次のとおり開催した。

(1) 開催日時 2021 年 6 月 7 日 (月) 13 時 55 分～14 時 20 分

(2) 開催場所 パレスホテル東京 2 階梅の間
東京都千代田区丸の内 1-1-1

(3) 出席会員 71 社 (議決権のある社員数 97 社)
出席社員数 (委任状による者を含む) 10 社
書面による議決権行使社員数 61 社

(4) 議長 会長 中本晃

(5) 承認された議案

第 1 号議案 2020 年度事業報告及び収支決算書案の承認に関する件

第 2 号議案 任期満了に伴う役員の変更に関する件

(6) 報告事項

報告事項 2021 年度事業計画及び収支予算の件

2. 理事会 (役員名簿: 別紙 2)

(1) 開催状況

第 1 回	2021 年 4 月 16 日 (金)	14 時 00 分～16 時 00 分
第 2 回	2021 年 6 月 7 日 (月)	13 時 00 分～13 時 50 分
第 3 回	2021 年 7 月 9 日 (金)	14 時 00 分～16 時 00 分
第 4 回	2021 年 9 月 10 日 (金)	14 時 00 分～16 時 00 分
第 5 回	2021 年 10 月 14 日 (木)	14 時 00 分～16 時 00 分
第 6 回	休会	
第 7 回	2022 年 1 月 14 日 (金)	15 時 30 分～16 時 30 分
第 8 回	2022 年 3 月 18 日 (金)	15 時 30 分～16 時 30 分
臨時理事会	2021 年 6 月 7 日 (月)	14 時 30 分～14 時 40 分

(2) 主な決議事項

(第1回理事会)

- ①2020年度事業報告書(案)および収支決算書(案)承認の件
- ②2021年度定時総会議案書(案)および総会招集の件
- ③賛助会員入会申込の件
- ④環境委員会副委員長選任の件
- ⑤湘南ヘルスイノベーションパークとの覚書締結の件

(第2回理事会)

- ⑥労務委員会副委員長および統計委員会委員長選任の件
- ⑦会員入会の件
- ⑧LADSに関する多団体間覚書署名の件

(第3回理事会)

- ⑨2021年度JASIS開催等の件
- ⑩2021年度JASIS開催に関する覚書締結の件

(第4回理事会)

- ⑪展示会委員会副委員長選任の件
- ⑫JASIS 2021開催の件

(第5回理事会)

- ⑬正会員入会申込の件
- ⑭医療機器委員会副委員長選任の件
- ⑮協力企業との適正取引の推進に向けた行動計画改定の件
- ⑯2022年新年懇親会の件

(第7回理事会)

- ⑰2022年度工業会基本方針及び事業計画の重点について
- ⑱電子取引データの訂正及び削除の防止に関する事務処理規程制定の件
- ⑲後援名義使用承認(新規)の件

(第8回理事会)

- ⑳2022年度事業計画及び収支予算の件
- ㉑常設委員会委員長交代に伴う選任の件
- ㉒2022年度定時総会開催について

(臨時理事会)

会長、副会長及び専務理事選定の件

3. 2022年新年代表者懇談会

開催日時：2022年1月14日(金) 16時40分～17時20分

開催場所：パレスホテル東京 4階芙蓉の間

出席登録者：70名

開催次第：①新年挨拶 会長 中本 晃

②2021年度事業中間報告

工業会の現況 専務理事 松浦 義和

委員会活動報告 企画戦略会議議長 山下 泰生

4. 2022年 新年賀詞交換会

開催日時：2022年1月14日(金) 17時30分～18時30分

開催場所：パレスホテル東京 4階山吹の間

出席登録者：109名

開催次第：①挨拶 会長 中本 晃

②来賓挨拶 経済産業省大臣官房審議官 福永 哲郎

備考：新型コロナウイルス感染防止のため、立式でノンアルコール飲料のみ提供

5. 設立60周年記念事業

(1) 設立60周年記念式典・優秀従業員表彰・感謝状贈呈

開催日時：2021年6月7日(月) 15時～16時

開催場所：パレスホテル東京 2階葵の間

式次第：開会挨拶 会長 中本 晃

表彰式 優秀従業員表彰

感謝状贈呈

外部の諸先生への感謝状贈呈

委員会功労者への感謝状贈呈

※表彰状・感謝状の授与対象者数：55名(当日参加者30名)

閉会挨拶 60周年記念事業実行委員長 足立 正之

記念撮影：役員、出席した表彰状・感謝状授与対象pp者

(2) 60周年記念誌作成・電子book化

60周年記念誌を2021年10月に会員をはじめ関係者に配付

60周年記念誌を電子book化(JAIMAホームページ掲載)

(3) 分析機器・科学機器遺産書籍・電子Book化

2012年から2016年までの5年間に亘り、合計77品の「分析機器・科学機器遺産」の認定事業を実施し、認定品を収録した分析機器・科学機器遺産の書籍を作成したが、今般の60周年記念事業として書籍の電子Book化を実施(JAIMAホームページ掲載)

III. 委員会活動

1. 企画戦略会議

(1) 企画戦略会議開催

①2021年度は企画戦略会議を7回(第6回休会)開催し、理事会に上程する議題の審議を行った。

また、企画戦略会議委員が分担して各常設委員会に参加し、各委員会活動のモニタリングを行い、複数の委員会間で調整が必要な事項を企画戦略会議で審議し、調整を行った。

②正副委員長会議を開催し、各委員会が概ね当初計画どおりに活動していることを確認するとともに、各委員会事業の成果を取りまとめ、理事会、代表者懇談会等で定期的に報告した。

・2020年度事業の報告(2021年度第1回理事会2021.4.16開催)

・第1回正副委員長会議開催 各委員会事業計画/予算説明・意見交換実施(2021.10.5開催)

・第2回正副委員長会議開催 各委員会事業中間報告・意見交換実施(2022.3.4開催)

③常設委員会から提出された 2022 年度事業計画（案）および収支予算（案）について調整し、第 8 回理事会に上程した。

(2) 展示会企画戦略小委員会開催

①コロナ禍による社会変化に対応し、With/after コロナを踏まえた JASIS 企画を誘導していくことを活動目標として、次年度以降の JASIS 将来像や新規企画を検討。

②2021 年度は、展示会委員会、技術委員会、国際委員会等と連携し、主催者としてのテーマの打ち出し施策（トピックスステージ企画、主催者メッセージ、LabDX デモ企画等）の検討、展示会の国際化方針の整理・見直し、コンファレンス改革、Webexpo 将来検討、JASIS10 周年記念イベント企画検討等を実施した。（小委員会は毎月開催）

(3) 調達小委員会

①調達小委員会開催

2021 年度第 1 回調達小委員会

開催日：2021 年 9 月 30 日（木）10 時～12 時

議題：・講演 パートナリシップ構築宣言の概要

説明者：中小企業庁事業環境部企画課係長 立入咲帆

・協力企業との適正取引の推進に向けた行動計画の改定について

・意見交換

②第 2 回フォローアップ調査実施

10 月から 11 月の間、正会員に対し第 2 回フォローアップ調査を実施し、調査の取りまとめ結果について、2022 年 3 月 3 日に開催された中小企業政策審議会中小企業経営支援分科会取引問題小委員会に専務理事が出席し、概要を報告した。

③適正取引推進関連情報の会員への周知

適正取引に関する中小企業庁の動き、中小企業庁において実施される下請取引適正化推進講習会・適正取引講習会（オンライン）の会員への周知を随時行った。

2. 技術委員会

分析装置及び分析手法に関する情報の収集・展開・普及、将来展望に関する調査などを通じて、工業会全体及び各会員企業の技術力向上、事業拡大に貢献することを目的として、(1) JASIS コンファレンス等の企画運営、(2) グローバル交流、(3) 技術普及・調査、(4) 分析機器の手引き改訂、(5) 次世代人材育成支援を実施した。

(1) JASIS コンファレンス等の企画運営

コロナ禍での予算面の影響と、オリンピック延期による日程変更で会場確保が困難となったことから、2021 年も JASIS コンファレンスの展示会場での実施を中止した。

代替施策として、WebExpo にて JASIS コンファレンスを開催し、新たな企画として展示会委員会と共にトピックスセミナーを企画した。

① JASIS WebExpo®2021-2022 JASIS コンファレンス他団体連携実施

参加団体（3 団体）：

- ・産業技術総合研究所計量標準総合センター
- ・一社）日本環境化学会
- ・科学技術振興機構 研究開発戦略センター（JST-CRDS）/研究基盤イノベーション分科会（IRIS）

② 新技術説明会およびトピックスセミナー企画/運営

- ・新技術説明会プログラム編成をオンライン会議で実施した。これまで、プログラム編成会議は技術委員会を中心に一部のメンバーで実施されてきたが、今年は展示会委員会と共に参加者を募り、プログラム編成の透明性を高めて実施した。
- ・新たな企画として、展示会委員会と共にトピックスセミナーを企画した。トピックスセミナーでは、技術委員会調査小委員会で進めているラボラトリーオートメーションと連動させた、「ラボラトリ・デジタル・トランスフォーメーション」セミナーを企画した。(下記(3)-②)

③ 次年度以降の JASIS コンファレンスの検討

- ・2022 年度も 2021 年度と同様中止とする一方で、2023 年度以降の JASIS コンファレンスのあり方について議論を進めた。
- ・JASIS コンファレンスは JASIS への集客機能、各種団体とのネットワークハブ機能という重要な役割を担ってきたものの、WebExpo やトピックスセミナー等の新たな企画によりその役割の一部が既に担われている一方で、JASIS 収入の減少によりこれまでのような無料で会場を提供することが困難になってきている。また、JASIS へのミレニアル世代の取込を進めるなどの新たな観点での取組が必要との認識の下、従来型の JASIS コンファレンスは役割を終えたとして幕引きし、新たな企画を提案することとした。

(2) グローバル交流事業実施

①On-line RSC-TIC 2021 実施

2021 年度は、RSC のシステムプラットフォーム (InEvent : 講演ライブ配信、ePoster : ポスター発表と意見交換) を使用し、12 月 6 日・7 日の 2 日間開催した。

テーマ : 「Spectroscopic imaging and sensing」

参加者 : 28 か国、212 名 (日本人は 50 名程度)

講演数 : 8 件 (堀場製作所、島津製作所も講演)

ポスターセッション : 17 か国 93 名発表

※2020 年度の参加者 142 名、ポスター発表 66 名に対して、大きく伸びた。

②ベトナムラボ試験機器協会 VINALAB との共同セミナー実施

東京大学戦略的パートナーシップのベトナムチームと協力して、JAIMA の海外友好団体であるベトナムラボ試験機器協会 VINALAB とのオンライで共同セミナーを技術委員会と連携して開催した。聴講者はオンライ参加形式で参加する国際イベントとなった。

日時 : 12 月 16 日 (木)

会場 : 東京会場 (島津製作所東京支社イベントホール) とハノイ会場をオンラインで結び開催

日本側参加者 : JAIMA 参画企業 (10 社)、東京大学教授

セミナー内容 : JAIMA 会員企業から、食品安全と環境分析関連の技術および製品紹介を行い、ベトナム側はベトナムの分析事業に関する市場レポートや大気・海洋汚染に関する最新の分析結果が報告された。

(3) 技術普及・調査実施

①LADS (Laboratory and Analytical Device Standard) の Companion Specification 開発参加

- ・ラボの複数機器/機能とその結果(データ)を機器メーカーの違い越えて人や機器自身が理解し、一連の動作を半自動的に進められる情報モデル業界標準の開発に参加 (ゴール: 2024 年発行)。

- ・初期は、SPECTARIS, VDMA（ドイツ機械工業連盟）、OPC Foundation に JAIMA が加わり Joint Working Group (JWG) を構成。その後、Labmas（スペイン）、FHI（オランダ）、GAMBICA（英国）も参加し、現在 7 団体の活動となっている。

②JASIS 2021 トピックスセミナー実施

JASIS 2021 トピックスセミナーにおいて以下の 2 講演を企画した。

セッション:「新たな研究開発プロセスへの変革と機械学習・ロボット・分析機器の統合システム」

- ・リサーチトランスフォーメーション (RX) とこれからの研究機器開発

講師 JST/CRDS 永野 智己 リーダー

- ・「ラボシステムインテグレーション」～機械学習とロボットで分析機器同士をつなぐ～

講師 東京工業大学 一杉 太郎 教授

③JASIS WebExpo®2021-2022 JASIS コンファレンス実施

JASIS WebExpo®2021-2022 JASIS コンファレンス 5 件の講演および 1 件のライブシンポジウム配信を実施。

- ・ラボの将来像と実現に向けてのアプローチ (JAIMA 技術委員会)
- ・ラボの進化を加速するロボットソリューション (ヤマト科学)
- ・分析機器業界の国際標準 LADS と相互運用基盤 OPC UA (JAIMA 技術委員会 + 日本 OPC 協議会)
- ・データ駆動型デジタルラボの実現 (富士通)
- ・人協働ロボット COBOTTA によるラボラトリーオートメーション (デンソーウェーブ)
- ・これからの先端研究機器 - 新たな機器開発エコシステム形成へ向けて (JST/CRDS, 研究基盤イノベーション分科会)

④ラボの将来像とそのアプローチに関する外部団体/組織と情報・意見交換の実施

- ・新化学技術推進協会 (JACI) JACI と情報・意見交換会を実施。「研究・開発ワークフローのハイスループット化」に向けての解決策を協議。
- ・日本 OPC 協議会の OPC Day 2021 (12 月 10 日) で「ラボラトリーの将来像とそれを支える標準開発 LADS」を紹介
- ・研究基盤協議会シンポジウム (1 月 27 日) で「研究環境の LabDX-研究設備遠隔化の未来」紹介

(4) 分析機器の手引発行事業実施

①分析機器の手引き

- ・英語版の作成に着手し、JASIS にて暫定版を配布。
- ・2020 年版第 1 章の完成度を向上させ、DVD 版およびダウンロード方式にて JASIS で配布。
- ・12 月よりホームページで公開開始。透かし入り PDF 形式でのダウンロードとした。閲覧時には表示されないが、印刷時に透かしが入る。透かし抜き希望者には冊子/DVD 版を販売する。
- ・JAIMA 会員向け 3500 円、一般向け 5000 円にて販売開始。

②60 周年記念誌／分析機器年表 (2011-2019 年)

会員企業から提出いただいた情報をもとに年表を作成し、60 周年記念誌の付表とした。

- ・対象機種：会員企業推薦の新規性ある製品で 2011～2019 年に発売された製品
- ・掲載数制限：企業グループごとに最大数 40 製品
- ・製品分類：「分析機器の手引き」での新分類を参照

(5) 次世代人材育成支援実施

① JAIMA サマーサイエンススクール実施

- ・今年度はオンライン方式で 2021 年 8 月 4 日（水） 9:20 ～17:00 で実施した。参加生徒数は 37 名、協力企業数は 8 社、使用装置数は 8 機種であった。
- ・今回は、国際化学オリンピック日本委員会に共催いただいた。生徒さんは 3 つの会場に分かれて参加し、それぞれの会場からオンラインでの実習が行われた。分析機器については小型の装置は一部を会場に持ち込み、オンラインにて指導する形式を用いた。また、リモート操作可能な装置については、オンラインリモート操作での実習を行った。生徒さん達はリモート操作の実習に大変興味を示していた。

② 「第 53 回国際化学オリンピック日本大会 2021」のプレイベントへの参加

- ・国際化学オリンピック日本大会実行委員会の依頼で、「第 53 回国際化学オリンピック日本大会 2021」プレイベント「化学との出会い未来を拓く君たちへ Part2」に参加した。
- ・本イベントは、中学生・高校生・一般を対象に、2021 年 7 月 10 日(土)13:00～15:50 にオンライン方式で開催された。JAIMA からは、JAIMA と JASIS の紹介と 2 社からのデモンストレーション講演が行われた。

③ 『早稲田大学講座 素材機器分析評価』実施

- ・ COVID-19 の感染拡大への対策の為、キャンパスでの授業ではなく、早稲田大学のシステムにおいて、オンデマンド授業の形で実施した。
- ・期間：2021 年 4 月 8 日～7 月 15 日 毎週木曜日 第 5 時限 16:30～18:00
- ・履修学生人数：74 名 授業回数 15 回
- ・講師派遣企業数：12 社 15 名(会員企業 10 社 13 名、その他外部協力企業 2 社 2 名)
- ・主な講義内容：素材・材料分野における表面解析、構造解析、濃度解析などに利用される分析機器全般
- ・講義方式：大学のラーニング・マネジメント・システム(Waseda Moodle)にアップロードされた動画を視聴するオンデマンド授業

(6) ライフサイエンス小委員会

- ・ JASIS で例年実施している日米合同セッションの動画(mRNA ワクチンなど)を WebExpo にて配信。
- ・ Pittcon 2022 での JAIMA-ETC Symposium/Workshop を企画したが、COVID-19 のオミクロン株の影響でリアルイベントは中止となり、Pittcon2022 Conference Highlights (2022 年 3 月 9 日～6 月) として、オンラインでの実施となった。ETC-JAIMA Symposium に関しては 2022 年 5 月 19 日にオンラインで実施予定。
- ・オープンイノベーションを前提とした湘南 iPark との分析交流会を 2 回実施(2021 年 5 月 14 日、2021 年 10 月 25 日)した。テーマとしては遺伝子解析、X 線小角散乱、LC・ラマンを取り上げた。
- ・「分析機器の手引き」のライフサイエンス章の更新について検討し、2022 年度に更新作業を実施することになった。

3. 環境委員会

環境分野における機器コンプライアンスに関する規制への対応を実施した。

(1) 環境規制に関する情報収集

- ・毎月の委員会で最新情報共有。会員企業の困りごとを議論し、FAQ化して蓄積および委員会内共有を進めた。結果として毎月の委員会で25名近くの出席者が定着するようになった。
- ・医療・計測・分析・制御機器（カテゴリ8・9）関連工業会連絡会で得られる情報の委員会メンバーへの共有を実施。

(2) 環境規制へのロビー活動

- ・規制当局・コンサルタントへの答申と在欧日系ビジネス協議会（JBCE）等の現地団体と連携
- ・欧州関連団体（EUROM II、SPECTARIS、GAMBICA等）、米国関連団体（ALDA、EPPA等）他との連携
- ・SPECTARIS、JBCE、JEMIMA、化学系企業、JAIMAにて、欧州PFAS規制に対する協働活動を継続的に情報交換
- ・JAIMA名にて、数々の業界共同意見書を提出
- ・アメリカPBT物質禁止（特に塩素系難燃剤であるPLP 3:1）に対する業界・政府を横断した意見答申

(3) 会員企業への情報提供

- ・委員会セミナー（JASISトピックスセミナー、委員会メンバー用セミナー5回実施）
- ・JAIMA seasonへの委員会日より、トピックス投稿（計6件）
- ・カテゴリ8・9関連工業会セミナー

(4) 関係団体・ステークホルダーとの維持継続的な連携

- ・在欧日系ビジネス協議会、経済産業省、電機電子4団体、SPECTARIS他多数
- ・カテゴリ8・9関連工業会連絡会の運営と活動主導。とりわけ、欧州RoHS指令の除外期限延長について、適用除外タスクフォースの活動を牽引。

(5) JASIS2021 トピックスステージ企画協力

- ・JASIS（JASISトピックスセミナーにて環境規制セミナーをアレンジ。トピックスステージにて講師との名刺交換会を企画し、展示会場との導線をアレンジ。

4. 標準化委員会

分析技術・機器に関するビジネス戦略志向の標準化活動の推進により分析機器産業の競争力強化や産業発展を図ることを目的として次の事業を実施した。

(1) 産業標準化に関する情報の収集及び提供

①標準化情報共有

- ・標準化委員会を隔月（4月16日・6月17日・8月26日・10月14日・12月16日・2月28日）にWeb会議とし開催した。

②JASIS標準化セミナー

- ・セミナー開催を予定していた「JISK0133 高周波プラズマ質量分析通則の改正」が遅れたため本年度の開催は見送った。

③JAIMA標準化セミナー（コロナ感染対策のため延期）

④国際標準化の動向調査（コロナ感染対策のため海外出張取り止め）

(2) ビジネス戦略志向の標準化活動の推進企画立案・実行、会員の支援

会員企業の提案による標準委員会分科会を設置。①から⑦までの分科会で標準化事業を推進した。また、⑧は今年度新たに設置提案がされ承認された。⑤は今年度で活動を完了した。

- ①ICP-MS 析通則分科会（舟木分科会会長）
- ②相対モル感度（RMS）の求め方とその応用の JIS 制定分科会（河合分科会会長）
- ③超音波光イメージング分析通則分科会（堀川分科会会長）
- ④共通データフォーマット及び共通位置合わせ技術に関する分科会（井上分科会会長）
- ⑤フタル酸エステル分析分科会（大林分科会会長）
- ⑥JAIMA 委員派遣先委員会検討分科会（南雲分科会会長）
- ⑦質量測定分科会（加藤分科会会長）
- ⑧TBBPA の分析法の標準化（大林分科会会長）

※TBBPA 分析法規格化の実現可能性検討を目的とする。経済産業省産業標準化推進事業委託費（戦略的国際標準化加速事業：政府戦略分野に係る国際標準開発活動）受託事業に応募予定。

(3) 分析関連規格・国際標準等の検討及び原案作成

①経済産業省産業標準化推進事業委託費（戦略的国際標準化加速事業：政府戦略分野に係る国際標準開発活動）受託事業

- i. 熱分解装置／加熱脱着装置及びガスクロマトグラフ（Py/TD-GC）を使用したポリマー中フタル酸エステル類の一斉分析法に関する国際標準化
 - ・「IEC62321-8 の改正を IEC TC111 WG3 に提案し、新規プロジェクトとして登録する」という最終目標を達成し、最終年度（3 年目）の事業を完了した。
 - ・規格開発は(株)島津製作所が中心となり継続し、適宜その進捗を標準化委員会で報告することが決まった。
- ii. 計測分析データ共通フォーマットおよび共通位置合わせ技術に関する JIS 開発（継続申請中）
 - ・第 2 年度の事業を終了した。来年度も継続する予定。
 - ・今年度の成果とし、共通位置合わせ技術に関する JIS 原案を日本規格協会に提出した。

②日本規格協会公募事業

- ・JISK0133 高周波プラズマ質量分析改正原案を日本規格協会に提出した。
- ・超音波光イメージング分析通則（JIS）提案予定だったが、次年度に応募することになった。

(4) ISO/IEC 国内審議委員会、他団体 JIS 原案作成委員会等への委員派遣

①JIS 原案作成委員会委員派遣

下記の委員会にそれぞれ委員を新たに派遣した。

- ・JIS K7122(プラスチックの転移熱測定)の改正委員会
(本件は JAIMA から本 JIS の事務局（日本プラスチック工業連盟）に改正依頼した。)
- ・水素ガス中の一酸化炭素の定電流電解方式自動計測器に関する JIS の開発

②ISO/IEC 国内審議委員会委員派遣

- ・ISOTC336 (Laboratory design) へ日本はオブザーバーメンバーとして参加することが決まったので、委員会情報を提供してもらうことになった。

③日本薬局方理化学試験法委員会、物性試験法委員会および総合委員会天秤 WG 委員派遣

(5) 計量法審議に関する協力

- ・経済産業省計量行政審議会計量標準部会へ委員を派遣した。
- ・標準物質認証委員会（産業技術総合研究所）に新たに委員を派遣した。

(6) ニューノーマル時代のイノベーションと人材育成投資への貢献

標準化人材育成のため、若手の国際標準化委員会（WEB会議）へのオブザーバー参加を計画したが、実現できなかった。

5. 労務委員会

労働法制の改正、働き方改革など工業会会員が共通に直面する人事・労務の課題に対応することを目的として、(1)主要労働条件に関する調査・研究、(2)会員企業等の労務・人事担当者に対する講演会（セミナー）の開催、(3)トピックス的情報交換を実施した。なお、年度当初予定していた(4)異業種交流会については、新型コロナウイルスの感染拡大の状況により実施を断念した。

(1) 主要労働条件に関する調査・研究

合計6回の労務委員会をオンラインで開催し（内1回は3月25日に開催予定）、人事・賃金制度、労働時間制度、定年退職・定年後再雇用等主要労働条件に関する調査や新型コロナウイルス感染拡大への対応等について情報交換を実施した。

○2021年5月28日 第1回労務委員会

- ① 春闘各社結果について
- ② COVID-19 ワクチン接種の際の特別休暇の付与について
- ③ オリンピックのボランティアを行う従業員へのボランティア休暇の付与について

○2021年7月16日 第2回労務委員会

- ④ COVID-19 ワクチン接種の対応状況について
 - 職域接種の実施予定
 - 接種時の就業の取り扱い
 - ワクチン接種後の業務の取り扱い
 - 副反応時の対応
 - 接種会場までの交通費の取り扱い

○2021年9月24日 第3回労務委員会

- ⑤ コロナ禍でのオフィス勤務における従業員の安全確保、ワクチン接種状況
- ⑥ 高年齢者雇用（定年退職、定年後再雇用）の状況
- ⑦ コロナ後の働き方について

○2021年12月2日 第4回労務委員会

- ⑧ オミクロン株発生に伴う、海外出張の対応の変更について
- ⑨ 現在のコロナ対応について（国内出張・イベント開催状況）
- ⑩ 出勤率・在宅率の管理および現状の確認
- ⑪ コロナ禍における人材不足の状況について
- ⑫ 同日開催したセミナー「ローパフォーマー、問題社員への対応」の聴講後の所感

○2022年1月21日 第5回労務委員会

- ⑬ 賃上げ検討状況について
- ⑭ 定年延長や定年退職者の再雇用について
- ⑮ COVID-19 オミクロン株感染対策について
- ⑯ 時間単位有休、遅刻の取り扱いなどの人事制度について

○2022年3月25日 第6回労務委員会

- ⑰ 在宅勤務制度の整備についての検討の状況

⑱ 育児・介護休業法の改正について

(2) 会員企業等の労務・人事担当者を対象にした講演会（セミナー）の開催

今年度は、コロナ禍の事情もあり、主に労務委員を対象に講演会（セミナー）を実施した。労務委員所属各社の人事関係者等にもご参加いただき、参加者は23名であった。

日 時：2021年12月2日(木)10:00～11:15

場 所：JAIMA 会議室（オンライン併用）

演 題：「ローパフォーマー、問題社員への対応」

講 師：石寄・山中総合法律事務所 弁護士 江畠 健彦先生

参加者：JAIMA 労務委員会委員他、各社人事労務担当者（23名）

講演内容：

- ① 問題社員とは
 - 能力不足者
 - 勤務態度不良者
 - 健康不安者
 - 私生活不安定者
- ② 問題社員のパターンに応じた具体的な対応方法
 - 懲戒処分、降格処分、配転命令及び普通解雇の可否

(3) トピックス的情報交換実施

人事・労務管理上での日常的・緊急的課題に関し、随時、メールで労務委員間の情報交換、意見交換を行なった。

- ① COVID-19 感染予防対策について（2021年4月）
- ② COVID-19 ワクチン接種の対応状況について（2021年6月）
- ③ クリーンルーム手当の支給について（2021年8月）
- ④ 法令資格手当の支給について（2021年8月）
- ⑤ 決算期変更に伴う賞与支払い時期について（2021年8月）
- ⑥ コロナ禍における海外出張に伴う手当について（2021年8月）
- ⑦ 在宅勤務・時差出勤の制度化について（2021年11月）
- ⑧ 欠勤・休職者への対応について（2021年12月）
- ⑨ 業務用車運転に対する睡眠時無呼吸症候群（SAS）に関する対応状況について（2021年12月）
- ⑩ 営業手当の支給について（2022年2月）
- ⑪ 通勤費の上制限について（2022年3月）

(4) 異業種交流会（コロナ禍の状況下、今期の実施は断念）

6. 知的財産委員会

分析機器に関する知的財産権の管理推進を目的とする会員企業への情報提供、会員企業間での情報交換を推進することを目的として、次の調査活動及び情報交換を実施した。

(1) 分析機器に関する知的財産権関連情報交換

① 知的財産委員会（本委員会）

知的財産委員会（本委員会）を4回開催し、会員企業間の有用な知財関連情報の交換を実施。コロナ禍のため、海外視察、異業種交流は実施できなかった。

1) 第1回知財委員会：年間の活動計画を策定

- 2) 第2回知財委員会：米国特許弁護士服部先生による知財講演会を実施
- 3) 第3回知財委員会：特許庁の特許・意匠・商標担当の審査官との交流会を実施
- 4) 第4回知財委員会：本年度の振り返り、小委員会（特許・商標）の報告会を実施

②小委員会活動

小委員会活動の中に商標研究のグループを作り、特許に加えて商標の調査・研究活動を行った。

- 1) 特許グループでは、全9回の会合を開催し、知財人材育成、特許補償、外国で生まれた発明の取り扱いなど、知財実務に直結する様々な研究を行い、第4回知財委員会でその成果を発表した。
- 2) 商標グループでは、全4回の会合を開催し、情報交換の機会の少なかった商標担当者が会合に参加し、商標調査、商標権利化・更新、商標涉外・係争について研究を行い、第4回知財委員会でその成果を発表した。

(2) 知的財産権に係る行政機関（特許庁）との交流・情報交換

特許庁審査官等を招き、行政と会員企業間の交流・情報交換を実施。本年度は特許庁側10名（特許、意匠、商標：主に審査官）、委員会側19名が参加して実施した。コロナ禍ではありましたが、特許庁側からは全員が工業会にお越しいただき、委員会側は7名が事務所参加、12名がWeb参加というハイブリッド形式で実施し、活発な意見交換がなされた。（第2回知的財産委員会）

(3) 知的財産権講演会開催

米国特許弁護士服部健一先生による知財講演会を実施した。コロナ禍でしたのでワシントンDCと日本を結ぶリアルタイムのWeb会議形式で実施した。日本人初の米国弁護士として長年のご経験に基づき、日米の文化の違いを含め、米国特許法についての解説をいただいた。（第3回知的財産委員会）

7. 国際委員会

分析機器産業のグローバル化とJASISの国際化を推進することを目的として、海外団体との連携強化、海外との情報の受発信充実、海外へのソリューション提供の強化、輸出管理・海外市場に関する情報収集と啓発活動を実施した。

(1) JAIMAのグローバル化：海外友好協力団体との連携強化

①欧米友好協力団体：ALDA（米国）、EUROM II（欧州：GAMBICA（英国）、SPECTARIS（独ほか）との連携強化と交流推進

- ・ALDA-EUROM II-JAIMA ミーティング（米国、欧州）とのオンライン会議での情報交換（4月、12月、2月実施）

②海外展示会主催団体ピッツ展、メッセミュンヘン等との交流推進

- ・Pittcon：11月、3月にオンライン会議実施。2022年3月5～9日にAtlantaで開催予定であったが中止。シンポジウムはconference Highlightsとして開催（JAIMAシンポジウムはアメリカ時間5月19日予定）。
- ・メッセミュンヘン：6月および3月の国際委員会で株式会社メッセ・ミュンヘン・ジャパンより情報共有いただいた。

(2) JAIMAのグローバル化：JAIMAの海外向け発信と国際的プレゼンス向上

①アジア友好協力団体：連携強化と交流推進

- ・中国儀器信息网（instrument.com.cn）：材料科学をテーマとして初の日中オンラインフォーラム開催（7月）

- ・中国 CAIA : BCEIA2021 で「日中科学機器発展フォーラム」開催 (9月)
- ・ベトナム VINALAB : 食品安全および環境品質管理 をテーマとして共同セミナー開催 (12月)
- ・インド IAIA、タイ TISTR とのオンライン会議開催
- ・Separation Science・中国儀器信息网・タイ TISTR で海外向け PR 動画掲載 (JASIS 2021 で撮影)
- ・JASIS 2021 国際セミナーで各国からの発表実施
マイクロプラスチック講演 タイ TISTR およびベトナム VINALAB
中国のスマート実験室と IoT 応用事例 中国分析測定協会の推薦により発表

②新興国等における海外展示会

- ・ARABLAB での Japan パビリオン:2020 年は延期され 2021 年 11 月に開催された ArabLab で Japan パビリオンとして展示

③各国在日大使館や海外マーケティング・メディア機関と連携

- ・各国在日大使館や海外マーケティング・メディア機関と連携して海外企業・ユーザー向け情報発信プレゼンス向上を図る
JASIS で 2 か国 (アメリカおよびチェコ) 大使館が国際ナショナルオーガニゼーションコーナーに出展
- ・Separation Science、中国儀器信息网・タイ TISTR のサイトで JASIS 2021 紹介および海外 PR 動画を紹介

④Web での情報発信 (広報委員会と共同) ,Video での情報発信

- ・JASIS 2021 紹介動画を中国儀器信息网 (instrument.com.cn)、Separation Science、TISTR の Web/Social Media で発信

(3) JASIS のグローバル化とアジアのハブ展化

①海外展示会派遣計画に基づく海外展示会出展、海外企業及び団体の JASIS 出展促進、新規友好協力団体の開拓 (海外渡航不可)

②アジア各国 (中国、韓国、台湾、シンガポール、ベトナム、タイ、マレーシア、インドなど) の分析機器関連友好協力団体訪問による JASIS への出展・来場の勧誘活動

- ・海外渡航不可のため、友好団体とはオンライン会議などを通して JASIS 情報提供を実施。

③JASIS WebExpo®の英文対応による海外向けアピール強化

- ・英語の講演動画 (8 本) が視聴できる WebExpo 上のエントランスを海外友好団体に情報提供

(4)国内外の政府機関・研究機関・大学等との協力関係構築によるグローバル化の推進

①JST、産総研、JETRO などの国内政府機関との連携強化

- ・JETRO による情報交換会実施 (3月)
- ・JST 協力により、中国儀器信息网 (instrument.com.cn) との材料科学をテーマとして初の日中オンラインフォーラム開催
- ・ファシリテーターとして産総研の先生の協力を得て JASIS 2021 にてマイクロプラスチックに特化した JAIMA 会員企業とのセミナー開催 (11月)

②国内留学生との交流機会の創出 (技術委員会と共同)

- ・JASIS 2021 で留学生企画を実施

(5) 輸出管理に関する情報収集と啓蒙活動（輸出管理小委員会）

①改正政省令、通達等の検討、解説、周知、委員会参加企業への影響対策検討

- ・小委員会4回開催（4月、7月、10月、2月）。リスト規制他安全保障貿易管理関連法規の改正内容、改正動向の確認、影響の検討を実施
- ・輸出者等遵守基準の改正案、「みなし輸出」関連法規の役務通達改正案に対するパブリックコメント提出
- ・「みなし輸出」に関する情報共有（機微技術情報の適切な管理等）
- ・電子申請、移設検知、規制番号国際化、米国の規制動向等に関する情報共有

②輸出管理に関する会員向けセミナー開催

「輸出管理セミナー」リモート開催（3月14日）

演題：ーみなし輸出、内部規定関連の改正法令の解説と対応についてー

(6) 海外市場における分析機器市場調査

①海外団体との会議での市況情報や分析機器市場データ収集

- ・VINALAB とのジョイントセミナーにて、 Nguyen Hoang Linh 会長よりベトナム市場報告
“Some features of Vietnam’s testing and analysis industry in the period of 2021-2025”

②JASIS 国際コンファレンスセッション

- ・JASIS2021 のトピックスセミナーでタイ・ベトナムの状況紹介

8. 医療機器委員会

(1) 医療機器関連他団体との連携

①一般社団法人日本医療機器産業連合会（医機連）各種委員会および関連 WG 活動

医機連の各種委員会および関連 WG 活動に参画し、会員会社に情報・資料を配布した（5回）。また、適時、会員の意見を収集し関連委員会に報告。

②一般社団法人日本臨床検査薬協会（臨薬協）との IVD-MD 会議開催等

- ・臨薬協と IVD-MD 会議を開催(5回)し、情報の共有と共通課題について議論を行った。
また IVD 地位向上 WG を開催(4回)し、施策を審議。
- ・臨薬協と共催でメディア勉強会を東海大学宮地勇人先生による「新型コロナウイルス感染症の PCR 検査等にかかる精度管理調査業務」報告書と精度管理マニュアル（厚労省通知）についてと題し実施。17社23名のメディアが参加。

③3 団体動物関連委員会合同会議開催等

- ・臨薬協および一般社団法人日本画像医療システム工業会（JIRA）との3団体動物関連委員会合同会議を開催(6回)し連携強化を図った。
- ・規制緩和活動により、承認申請が簡素化され、書類の押印が不要となった。
- ・8月に施行された薬機法改正に合わせて、3団体の質問・意見を取りまとめた。
- ・「動物用医療機器・体外診断用医薬品に関する医薬品医療機器等法講習」を計画するも省庁との日程調整がつかず中止となった。

(2) 臨床検査の標準化

①装置コード表改訂

- ・公益社団法人日本医師会、一般社団法人日本臨床衛生検査技師会等が実施する全国レベルの外部精度管理調査事業を支援する装置コード表 web システムで、2021年春、冬の改訂を実施。

②国内標準化活動

体外診断機器の分野での国際整合（JIS 化）に貢献するため、海外規格に関する国際会議への参加等による最新の情報入手及び会員への情報提供を行った。

- ・IEC61326-2-6 が昨年に改定されたことを受けて、JIS 化活動を実施した。病院や大学の専門家、関連省庁の方に参加いただき JIS 原案作成委員会を立上げ、原稿作成のために下部組織である分科会を開催し(11 回)、本委員会にて審議を進めた(1 回)。2/1 に原案委員会を開催して原案を確定し、2 月に日本規格協会に提出した。
- ・安全・EMC 規格小委員会を開催。(2 回)

(3) 国際活動

- ①国際小委員会を開催し、国際政策・アジア WG 等の情報を提供した。(6 回)
- ②ISO/TC212(臨床検査と体外診断検査システム)/WG3 および JWG6 の国内検討委員会に公益社団法人日本臨床検査標準協議会(JCCLS)を通じて委員 1 名を派遣し、12 月に行われた国際会議(Web)に参加して、国内意見の国際規格への反映を図るとともに、ISO の開発や改訂についての最新情報を会員に提供した。(5 回)
ISO/TC210(医療機器の品質マネジメントシステム)の国内検討委員会、国際規格推進委員会に委員 1 名を派遣し、5 月に行われた国際会議(Web)に参加して、国内意見の国際規格への反映を図るとともに、ISO の開発や改訂についての最新情報を会員に提供した。(2 回)
- ③欧州の IVD 規制情報を得る為、10 月に行われた GDA 会議(Web)、9 月に行われた IMDRF 秋季(Web)に委員参加し、最新情報を会員に提供した。

(4) ライフサイエンス・イノベーションへの取組み

ライフサイエンス イノベーションウェビナーを JASIS プロジェクト小委員会、技術委員会ライフサイエンス小委員会と連携して実施した。

- ・「ライフサイエンスイノベーションウェビナー」～最新の生殖工学と宇宙空間（無重力下）研究・最前線～を開催、128 名が参加した。

(5) 公正取引の徹底

- ①分析工支部として委員会を開催し、コロナ禍での新しい考え方の相談等公正取引の各種情報を提供した。特に、医療機器販売にかかるコンプライアンス事例の紹介と法令順守の徹底を繰り返し会員企業に周知した。(6 回)
- ②公取協分析工支部にて公正競争規約勉強会(2/15)を開催した。初めて、Web 会議で開催し、会員企業から約 200 名の参加があった。

9. 広報委員会

JAIMA の認知度/知名度向上および会員サービス向上を図ることを目的として、JAIMA の各委員会や事務局と連携し、(1) JAIMA オフィシャルサイトによる広報活動、(2) 会員向けメールマガジン「JAIMA 通信」の発信、(3)「JAIMA Season」の定期発行、(4) JAIMA 情報の外部発信、(5)国内外メディア対応等を通じて、JAIMA や JASIS 情報の外部発信を実施した。

(1) JAIMA オフィシャルサイトによる広報活動実施

- ①会員向けおよび対外向けにニュース・イベントなどのトピックスを毎月 10 数件ペースで継続掲載
- ②JAIMA が行うセミナー情報などを WEB・メルマガを通じて会員向けに発信
- ③Web 分析総覧の検索システムを改善

(2) 会員向けメールマガジン「JAIMA 通信」発信

①2015年7月2日創刊、月刊発行を継続中。(2021年度末で通巻76号)

②法規制の動向、各種セミナー開催情報等やJAIMAの取組みを会員に継続的に情報提供

(3) 「JAIMA Season」の定期刊行

①定期刊行(四半期1回)により、工業会の内外のステークホルダーに対して適切な情報を発信

②特別企画「機器分析の支える、豊かな暮らしと産業のフロンティア」を連載。

各分析機器が活躍する事例を紹介するコンテンツで、生活に近い分野や産業発展における分析機器の役割に関する解説記事。工業会内外の識者による執筆。

③2021年はJAIMA設立60周年記念式典の内容を記事化し、60周年記念誌発行について紹介した。

また、現在の国際委員会活動の基盤となった過去20年に亘る国際委員会活動の内容を紹介した。

(4) JAIMA 情報の外部発信

①プレスリリース実績(当年度4月～3月): プレスリリース件数13件(前年13件)、メディア掲載数609件(前年624件)、広告換算金額4,218K円(前年3,373K円)。

*メディア掲載数、広告換算金額はいずれも「@press(アットプレス)」調べ

②リサーチ会社 米国 Instrument Business Outlook 誌(IBO)の米・欧・日各工業会へのマーケットサーベイに協力し記事化に貢献した。

③JASIS委員会、JSIA/JAIMA事務局と連携し、JASIS(幕張)にて記者会見を実施。

(記者会見参加メディア数: 16社25名)(昨年14社20名)

④特別企画や、JASIS WebExpo[®]などのJASISトピックスの発信タイミングを調整しながら、年間通じてメディア発信を実施。

(5) 国内外メディア対応

①国際委員会と協議し国際化に向けた情報発信としてSNS利用に着手(LinkedIn)

②海外の認知度向上のため、プレスリリースの海外配信含む効果的な広報活動について、次年度にむけ英語サイトの充実化などを検討

(6) 『工業会案内』(和/英)

『工業会案内』(和文/英文)の次年度改訂・発行にむけ準備。

10. 展示会委員会

(1) 「JASIS 2021」[11月8日(月)～10日(水)]開催

JASIS 2021ではJASISの価値を見直し、「測る」が支える未来の社会という主催者からのメッセージ発信を意識した展示会を開催した。

①展示:

- ・出展社数270社、871小間と出展者数は前年とほぼ同数、出展小間数が前年比約90%の状況となった。出展小間数減少に伴い、2.5ホールを使用しての開催となった。
 - ・来場者数は8,490名と前年比約116%であったが、コロナ前と比較すると約36%の状況であり、回復までには至っていない。
 - ・出展社数がほぼ前年同様にもかかわらず、出展小間数が大幅に減少しているのは、各社の出展小間数が減少していることが要因であり、今後の大きな課題と思われる。
- ◇展示来場者数: 8,490名(昨年7,299名)、出展小間数: 871小間(同971小間)、
出展社数: 270社(同276社)

②来場者・出展者のニーズに応えられ、厳しい予算の中で開催できる企画の実現を目指し、下記企画を実施

1) トピックスセミナー (New企画)

- ・現在、私達の周りには様々な社会課題があり、今回のトピックスセミナーは、それら社会課題に紐づいたテーマを選定し、テーマ別に国内で著名な方々にご講演頂いた。
- ・結果、2,588名に参加頂いた。事前の登録受付では全てのセミナーで満席となったが、当日のキャンセル率が高く、結果として満席率の平均は約56%となった。
- ・アンケート結果では聴講されなかった方の一番の要因は「時間がなかった」であり、今後は検討が必要と感じる。ただ、セミナー全体の満足度としては、アンケート結果からも高い評価を頂いており、社会課題の解決に向けた情報発信としては今後も継続すべき企画と思われる。

2) トピックスステージ (New企画)

- ・「JASIS トピックスステージ」では『「測る」が支える未来の社会』という主催者からのメッセージを発信する場所として様々な企画を実施。
- ・記者会見では読売新聞はじめ16社25名に参加頂いた。初めて展示会場というオープンな場所での開催となったが、参加頂いた記者の皆様からの反応も良く、今後も継続していきたい。
- ・本企画では主に3つの目的に応じた企画を開催。
 - 1つ目は、出展企業のPRの場、
 - 2つ目は、展示会場の活性化のため、来場者の増加のため、セミナー会場との導線強化
 - 3つ目は、JASISのテーマ、メッセージの発信の場としての企画
- ・セミナー会場との導線強化を狙い、トピックスセミナーの講師の先生方にセミナーとは違った話をして頂く企画については、10テーマについて様々な形式で来場者との交流を図って頂いた。トピックスステージ全体の参加者は531名と、規模(ステージ席数30席)の割には多くの来場者に聴講頂いた。

3) 新技術説明会

- ・新技術説明会については、講演件数は228テーマで前年比約87%の状況。
- ・トータル来場者数は前年と比較し増加しているにも関わらず、テーマ毎の参加者平均は減少している状況。満席となるテーマも減少しており、明らかに来場者の関心に変化が現れた結果となった。日頃から各社がWebinar等に積極的に取組、幕張まで足を運んで聴講する価値が低下している可能性あり。今後については、企画内容を見直していく必要を感じた。

◇テーマ数：228テーマ(昨年262)、聴講者数：延べ4,813人(同5,869名)
(=21.1人/テーマ、昨年：22.4人/テーマ)

4) JASIS WebExpo® 2021-2022

- ・9月の開始から3/15(火)までの会期では、出展社延べ109社、来場者は11,084名で、前回の来場者と11,144とほぼ同数の来場者となった。
- ・来場者は前年とほぼ同程度であるが、コンテンツの閲覧数は大幅に伸びており、来場された方が様々なコンテンツを閲覧されていると推測できる。
- ・来場者のアンケート結果からも昨年に続き、満足度の高い企画であった。

③JASISのグローバル化の推進

国際委員会の協力を得て、トピックスセミナーの中でグローバル枠を設定し、海外の先生方に参加頂き、Live配信を実施。通信のトラブルはあったが、コロナ禍の中、グローバル化の取組としては第一歩を踏み出した。

(2) JASIS 将来像の検討

① JASIS 改革（企画内容の見直し）

JASIS 2020 の結果を踏まえ、JASIS 2021 では新企画を実施。社会課題に紐づいたテーマを選定したトピックスセミナーや主催者のメッセージ発信の場としてトピックスステージなどの企画を実施した。

② 小委員会体制改革

現在の小委員会体制は、検討事項が各小委員会で重なっている部分もあり、検討項目に沿った新体制での小委員会の体制を検討。JASIS 2022 の小委員会は新体制でスタートできた。

(3) 「JASIS 2022」「JASIS 関西 2023」の開催準備

JASIS 中期戦略の策定方針を基に、NEW JASIS の実現を目指す。

JASIS 2022

開催期間 : 2022年9月7日（水）～9日（金）

開催場所 : 幕張メッセ及び近郊ホテル

使用ホール : 3 ホール

出展小間数 : 一般小間数 850小間（JASIS2021実績は一般小間数 801小間）

JASIS 関西 2023

開催期間 : 2023年2月1日（水）～3日（金）

開催場所 : グランキューブ大阪予定

1 1. 統計委員会

(1) 生産高、輸出高、輸入高統計データ

正会員および賛助会員を対象に四半期ごとの生産高、輸出高、輸入高統計データを調査し、統計委員会で四半期ごとの調査結果を分析し各社にフィードバックするとともに、結果を理事会に報告し、会報に掲載した。

会員企業向け最新四半期統計データ公表のタイミングを、従来の約 3 か月前倒しし、新たな四半期データを集計し委員会にて承認した後すぐに関覧できるようにした。

（統計委員会開催日：2021.5.26、2021.8.27、2020.12.2、2022.2.24）

(2) 海外協力団体とのデータ交換及び配布

受注統計小委員会において以下の JAIMA-ALDA-EUROM II 合同の受注高四半期統計に参加。

① 主な集計項目 : ア) 世界 6 地域におけるラボ分析機器ビジネスの総受注額

イ) 世界 6 地域における対象機種種の受注金額および台数

② 地域 : 北米、欧州、日本、中国、インド、その他の 6 地域

③ 対象 11 機種 : GC、GCMS、LC、LCMS、UV、AA、FT-IR、TOC、蛍光、ICP、ICP-MS

④ 参加企業 : 22 社

1 2. 委員会開催状況

委員会開催状況を別紙 3、各委員会「正・副委員長、小委員会主査等名簿」を別紙 4 に示す。

IV. その他の事業活動概要（事務局等）

1. 生産高、輸出高、輸入高動向調査

会員を対象に統計調査を実施し、四半期毎と年度毎の集計結果を発表。

2. 分析機器に関する生産性向上仕様等証明書が発行事業

中小企業経営強化税制・固定資産税特例制度に協力し、分析機器に関する生産性向上仕様等証明書を審査、発行。

3. その他行政諸施策および他団体事業への協力

- (1) 一般財団法人安全保障貿易情報センター（CISTEC）の出捐団体となっており、安全保障輸出管理委員会に専務理事が参加。
- (2) 日本工業標準調査会（JISC）の化学・環境技術専門委員会に臨時委員として職員を派遣。
- (3) 別紙5のとおり、他団体のJIS等関係調査事業、ISO/IEC関係委員会、理事会等に協力。
- (4) 経済産業省、厚生労働省関係の各種通知、公募情報、各種表彰制度募集、各種法規制関連情報等について、ホームページ掲載、会報掲載、メール送信により会員に周知。
特に、2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う政府非常事態宣言、海外渡航の取扱や、ロシア等向け輸出規制発動などの情報をタイムリーに会員向けに発信。
- (5) 環境省補助金事業「脱炭素社会の構築に向けたESGリース促進事業」対象製品の分析機器への拡大要望の取りまとめ、環境省対応を実施。

4. 分析機器工業の経営実態調査

会員の企業規模等実態調査を実施。

5. 計量法の普及、計量行政施策の実施に対する協力

- (1) 国際法定計量機関（OIML）関係委員会への協力
OIML国内委員会である産業技術総合研究所国際計量研究連絡委員会に専務理事が参加。
- (2) 一般社団法人日本計量機器工業連合会国際法定計量調査研究委員会に専務理事が参加。
- (3) 経済産業省計量行政審議会計量標準部会に委員を派遣した。

6. 分析機器に関する製品安全化事業

PL団体保険制度事業を推進した。

- (1) 海外を対象とする「海外団体PL保険制度」の参加会員 6社
- (2) 国内を対象とする「国内団体PL保険制度」の参加会員 3社
- (3) CGL保険（企業総合賠償責任保険）の参加会員 14社

7. 協賛名義等の使用承認

2021年度は16件の展示会、講習会等に対し、後援・協賛名義等の使用を承認。

8. 報告書等発行

- (1) 業務関係報告書
①JASIS 2021 結果報告書（和文）・②JASIS 2021 FINAL REPORT（英文）
- (2) 分析機器の手引き
- (3) JAIMA 60周年記念誌

9. 事務所移転

ビルオーナーのビル建替計画があり、2022年5月末から6月初めを目途に事務所を移転する必要があるため、不動産仲介業者を通じての物件探し・移転先検討、事務所レイアウト検討等を行った。

別紙1 会員の異動

1. 入会 (4社)

(1) 正会員 (2社)

2021年6月1日 株式会社エー・アンド・デイ

2021年11月1日 メータージャパン株式会社

(2) 賛助会員 (2社)

2021年4月1日 株式会社荏原製作所

2021年6月1日 ザルトリウス・ジャパン株式会社

2. 退会 (2社)

(1) 正会員 (1社)

2021年5月31日 アイネクス株式会社

(2) 賛助会員 (1社)

2021年4月30日 日本電計株式会社

3. 社名変更

賛助会員 (2社)

新) ミナリスメディカル株式会社

旧) 日立化成ダイアグノスティックス・システムズ株式会社

(2021年7月1日社名変更)

新) DKSH マーケットエクспанションサービスジャパン株式会社

旧) DKSH ジャパン株式会社

(2022年1月1日社名変更)

別紙2 一般社団法人日本分析機器工業会 役員等名簿

2022年3月31日現在

会 長	中本 晃	株式会社島津製作所 代表取締役会長
副 会 長	足立 正之	株式会社堀場製作所 代表取締役社長
副 会 長	大井 泉	日本電子株式会社 代表取締役社長兼 COO
副 会 長	高木 由充	株式会社日立ハイテク 常務執行役員
専務理事	松浦 義和	一般社団法人日本分析機器工業会
理 事	石丸 元国	日東精工アナリティック株式会社 代表取締役社長
理 事	岸本 京子	京都電子工業株式会社 代表取締役社長
理 事	佐藤 賢治	日本分光株式会社 代表取締役社長
理 事	志村 晶	株式会社リガク 取締役会長
理 事	東海林 正男	東亜ディーケーケー株式会社 常務取締役
理 事	和田 直也	ベックマン・コールター株式会社 品質薬事ダイレクター (アジアパシフィック担当)
監 事	加藤 英夫	公益社団法人日本臨床検査標準協議会 事務局長
監 事	小谷野 純一	理研計器株式会社 代表取締役社長
監 事	長見 善博	ジーエルサイエンス株式会社 取締役社長
相 談 役	栗原権右衛門	日本電子株式会社 代表取締役会長兼 CEO
相 談 役	服部 重彦	株式会社島津製作所 相談役
相 談 役	堀場 厚	株式会社堀場製作所 代表取締役会長兼グループ CEO

別紙3 委員会開催状況

1. 企画戦略会議	7回
展示会企画戦略小委員会	12回
調達小委員会	1回
2. 技術委員会	12回
企画運営小委員会	12回
3. 環境委員会	12回
(他団体合同委員会：カテゴリ8・9関連工業会連絡会)	4回)
4. 標準化委員会	6回
5. 労務委員会	7回
6. 知的財産委員会	4回
実務・調査小委員会	11回
7. 国際委員会	11回
輸出管理小委員会	4回
8. 医療機器委員会	5回
医療機器運営委員会	5回
薬機法小委員会	6回
標準・規格小委員会	6回
安全・EMC規格小委員会	4回
IVD-MD会議((一社)日本臨床検査薬協会との会合)	5回
医療機器業公正取引協議会分析工支部 支部委員会	6回
医療機器国際小委員会	6回
動物医療機器小委員会	6回
9. 広報委員会	12回
会報編纂小委員会/ホームページ小委員会/プレスリリース小委員会	
合同拡大会議として	4回
10. 展示会委員会 (JASIS 委員会)	12回
11. 統計委員会	4回

1 2. 標準化関係委員会

- ・ JIS K0133 高周波プラズマ質量分析通則改正原案作成委員会 5回
- ・ 「熱分解装置／加熱脱着装置及びガスクロマトグラフ (Py/TD-GC) を使用したポリマー中フタル酸エステル類の一斉分析法に関する国際標準化」
 - 本委員会 1回
 - 技術小委員会 1回
- ・ 「計測分析データ共通フォーマットおよび共通位置合わせ技術に関する JIS 開発」
 - 本委員会 4回
 - 技術小委員会 6回
 - 知財運営委員会 2回

以上

別紙 4

2021 年度 常設委員会 正・副委員長、小委員会主査等名簿

常設委員会名		氏名 (所属)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画戦略会議 ・ 展示会企画戦略小委員会 ・ 調達小委員会 	正 副 〃 主査 主査	山下泰生 (堀場製作所) 横山敏治 (日本電子) 的場俊英 (島津製作所) 的場俊英、杉田隆道 (島津製作所) 大坪邦英 (島津製作所)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術委員会 ・ 企画運営小委員会 ・ グローバル交流小委員会 ・ 技術普及調査小委員会 ・ ドキュメント整備小委員会 ・ 調査小委員会 ・ ライフサイエンス小委員会 	正 副 〃 主査 〃 〃 〃 主査 主査 〃 〃	杉沢寿志 (日本電子) 八谷宏光 (東亜ディーケーケー) 石隈 徹 (堀場製作所) 杉沢寿志 石隈 徹 川村幸嗣 (光明理化学工業) 八谷宏光 石隈 徹 神田浩幸 (リガク) 古賀正敏 (※ファシリテーター) 野村 聡 (堀場製作所) (※ファシリテーター)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境委員会 ・ 環境規制小委員会 	正 副 主	中井章仁 (堀場製作所) 寺倉生剛 (島津製作所) 佐藤純也 (理研計器)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 標準化委員会 ・ 規格標準化小委員会 	正 副 主	中川勝博 (島津製作所) 赤沼英雄 (ビーエルテック) 中川勝博
<ul style="list-style-type: none"> ・ 労務委員会 	正 副 〃	田崎克也 (アジレント・テクノロジー) 坂口 亨 (京都電子工業) 渡邊文平 (日本分光)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 知的財産委員会 ・ 知的財産調査・実務小委員会 	正 副 〃 主査	井上二三夫 (シスメックス) ⇒中野博司 中野博司 (島津製作所) 樋口勝則 (日本電子) 金子哲也、井上眞佐美 (シスメックス)

<ul style="list-style-type: none"> ・国際委員会 ・輸出管理小委員会 	正 副 〃 主査	遠藤政彦（アジレント・テクノロジー） 林 奨（堀場製作所） 上柳敦郎（島津製作所） 原 聡（島津製作所）
<ul style="list-style-type: none"> ・医療機器委員会 ・薬事法小委員会 ・標準・規格小委員会 ・安全・EMC小委員会 ・医療機器業公正取引協議会分析工支部 ・医療機器国際小委員会 ・動物医療機器小委員会 	正 副 〃 主査 〃 〃 正 主査 〃	鈴木信雄（日立ハイテク） 川中士郎（日本電子） 鈴木一弘⇒諸岡直樹（島津製作所） 西村裕之（サクラファインテックジャパン） ⇒薬袋博信（常光） 中山秀喜（シスメックス） 田中一啓（日立ハイテク） 川中士郎（日本電子） 関口幸児（キアゲン） 原 幸寛（リガク）
<ul style="list-style-type: none"> ・広報委員会 ・会誌編纂小委員会 ・ホームページ小委員会 ・プレスリリース小委員会 	正 副 〃 〃 主査 〃 〃	内匠優理香（リガク） 伊藤裕基（日立ハイテク） 野口美香（島津製作所） 菅野 剛（東亜ディーケーケー） 伊藤裕基 菅野 剛 野口美香
<ul style="list-style-type: none"> ・展示会委員会 (JASIS 委員会) ・展示小委員会 ・来場者小委員会 ・新技コンファレンス小委員会 ・主催者企画小委員会 ・Web 企画小委員会 	正 副 〃 〃 〃 主査 〃 〃 〃 〃	杉田隆道（島津製作所） 五十嵐真人（日立ハイテク） 金子静知（メルク） 長谷川武義（堀場製作所） 青木正孝（リガク）⇒生野 朗（日本電子） 青木正孝⇒生野 朗 岡部和徳（JSIA,池田理化） 長谷川武義 五十嵐真人 金子静知
<ul style="list-style-type: none"> ・統計委員会 ・受注統計小委員会 	正 主査	金子敏行（日立ハイテクサイエンス） 遠藤政彦（アジレント・テクノロジー）

別紙5 参加している他団体事業活動等

1. 他団体の J I S 等関係調査事業への協力

- (1) 計測・計量分野における用語および信頼性評価に関する国際標準化 (一財) 日本規格協会
- (2) 環境測定 J I S 総括委員会 (一社) 産業環境管理協会
- (3) プラスチック関係 JIS 委員会 日本プラスチック工業連盟
- (4) ボイラー関係 JIS 委員会 (一社) 火力原子力発電技術協会

2. 他団体の ISO/IEC 関係委員会への協力

(1) ISO 関係委員会

- ①TC45 (ゴムの化学試験方法) (一社)日本ゴム工業会
- ②TC47 (化学) (一社) 日本化学工業協会
- ③TC61 (プラスチック) 日本プラスチック工業連盟
- ④TC146 (室内大気測定) (一財) 建材試験センター
- ⑤TC147 (水質) (一社) 産業環境管理協会
- ⑥TC210 (医療用具の品質管理と関連する一般事項) (一社) 日本医療機器産業連合会
- ⑦TC212 (臨床検査と体外診断検査システム) (公社) 日本臨床検査標準協議会
- ⑧TC229 (ナノテクノロジー) (一財)日本規格協会
- ⑨TC298 (レアアース) (一社)新金属協会

(2) I E C 関係委員会

- ①TC65/SC65A (工業用プロセスの測定と制御への EMC 要求) (一社) 日本電気計測器工業会
- ②TC111 (RoHS 関連試験法の規格化) (一社) 電子情報技術産業協会

3. 他団体の理事会等への協力

- (1) (一財) 安全保障貿易情報センター (評議員会、部会、専門委員会)
- (2) (一社) 日本機械工業連合会 (理事会、参与会、技術開発委員会)
- (3) 国際計量研究連絡委員会 (OIML 国内委員会) (委員会)
- (4) (一社) 日本計量機器工業連合会国際法定計量調査研究委員会 (委員会)
- (5) (公社) 日本分析化学会 (理事会)
- (6) (公社) 日本臨床検査標準協議会 (理事会、委員会)
- (7) (一社) 日本医療機器産業連合会 (理事会、委員会)
- (8) (公財) 医療機器センター (評議員会)
- (9) 医療機器業公正取引協議会 (理事会、委員会)
- (10) (一社) 日本臨床検査薬協会 (委員会)
- (11) 独立行政法人日本学術振興会 193 委員会 (委員会)